

各位

「伝統産業の日」実行委員会  
京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室  
(担当：尾池・吉田 電話：222-3337)

**伝統産業 × 絵本**

時代が変わっても「親から子へ、伝えたい大切なストーリー(物語/モノがたり)がある」



「京都のモノがたりプロジェクト」  
参画事業者募集について

「伝統産業の日」実行委員会 京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室

The image is a promotional poster for a book project. At the top, it says '伝統産業 × 絵本' (Traditional Industry × Picture Book). Below that, a quote reads: '時代が変わっても「親から子へ、伝えたい大切なストーリー(物語/モノがたり)がある」' (Even as times change, there are important stories (tales/traditions) that parents want to pass on to their children). The central part of the poster features the title '「京都のモノがたりプロジェクト」' (Kyoto's Monogatari Project) and the subtitle '参画事業者募集について' (About Participating Business Collection). The background is a collage of various children's books. Some books shown include 'がたんごとな がたんごとな' (Gatango-tona Gatango-tona), 'おつきさまこんばんは' (Otsukisama Konbanwa), 'はじめてのおつかい' (Hajimete no Otsukai), 'ぎゅっぎゅっぎゅっ' (Gyūgyūgyū), and 'ぞうくんのさんぽ' (Zōkun no Sanpo). At the bottom, it lists the organizing committee: '「伝統産業の日」実行委員会 京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室'.

平素は、京都の伝統産業振興施策に御理解・御協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、「伝統産業の日」実行委員会及び京都市では、昨年3月に「伝統産業の日」制定20周年を迎え、これまで以上に京都の伝統産業の魅力を幅広く発信するべく、様々な取組を進めています。

その一環として、特に若い世代をターゲットとして、親子で伝統産業に触れる機会の創出、そして伝統産業品に愛着を持ち、長く大切に使うていただくことを目的とした「京都の伝統産業」×「絵本」の取組が、昨年度に大変好評いただきましたので、今年度も継続して取組を実施いたします。

つきましては、本企画に参画いただける事業者を募集いたしますので、企画詳細及び応募要項を御確認のうえ、御応募いただきますようお願いいたします。

## 【企画詳細・応募要項】

### 1 企画趣旨

伝統産業は、その土地の風土に合わせた知恵や、地産の素材を使った技術など、過去から現代へと受け継がれ、次世代にも伝えていきたいモノであふれています。そんな伝統産業の価値は、作品そのものの美しさに留まらず、工芸品を使うことで紡がれてきた生活文化・伝統文化や、匠の技に込められているものづくりへの想いなど、商品について語るときに合わせて伝えたい「モノがたり」の部分にこそ、感じるができるものです。

過去・現在・未来へ「モノがたり」を伝えていくこと。そこに着目すると、伝統産業と絵本には、重なる部分があるのではないのでしょうか。読み聞かせの時間を通じて、「物語」の世界を親子で共有することができるのが絵本の魅力。そしてその「物語」は、親から子へ、そして次の世代へと受け継がれていくのです。

「京都モノがたりプロジェクト」は、「伝統産業」と「絵本」に共通する、「過去から未来へ、物語を伝える」という点に焦点を当て、絵本の「物語」を伝統工芸の制作体験を通して味わってもらい、制作した作品を日々の生活の中で大切に使用することで、新たな「モノがたり」を紡いでもらうことを目的とした、「ものづくり都市・京都」だからこそ展開できる企画です。

### 2 企画内容

本企画は、株式会社福音館書店（本社：東京都文京区／代表取締役社長：佐藤潤一）が出版する絵本5作品を題材として取り組みます。①絵本作品の世界観を表すワークショップ（伝統工芸の制作体験等）の開発・実施、②絵本作品とコラボした商品の開発・販売の2本の取組を軸とし、その他関連企画も検討しております。次ページに、その企画内容の概要を記載します（現時点での予定です）。

#### (1) 作品の世界観を表すワークショップ（伝統工芸の制作体験等）の開発・実施

これまでから各事業者が実施されている伝統工芸の制作体験等について、今回の企画では、題材となる「絵本」の世界観を表現した作品の完成を目標として、実施していただきます。

また、詳細はエントリーいただいてからの相談となりますが、本企画のターゲット層が今まで伝統産業と接点が少なかった若年層、とりわけ「絵本」になじみの深い未就学児～小学校低学年くらいまでの子どもと、その世代のお子さんを育てている親を想定していることから、以下の点に御配慮いただけるような内容であれば幸いです。

- ・ 1回の制作体験の所要時間が30分～長くても1時間程度で完結する。

(あまりに長いと、特に小さいお子さんは集中力が続かず、親も参加しづらいです。)

- ・ 制作体験1回の体験費用について、材料費等を含め、概ね2,500円以内程度で実施できる。

(比較的若い親世代を対象としているため、あまりに高額だと参加のハードルが上がってしまいます。なお、企画実施に係る材料費等については、実施いただく事業者の負担とならないように配慮いたします。また、講師料を別途お支払いいたします。)

- ・ 制作体験中に、わずかでも未就学児等でも参加できる要素を加えていただける。

(親が1から10まで作って終わり、では、親子での制作体験という要素が薄れてしまいます。逆に「好きな色を選ばせてあげる」「手形・指型をつけてあげる」など、少しでも子どもと一緒に作ったものであれば、制作後も大切に使うてもらえると思っています。)

**【想定例】**

京焼・清水焼の絵付け体験

見本を見ながら、絵本の世界観を表す登場人物や風景などを豆皿に自由に書いてもらい、焼成して後日郵送。参加者には、豆皿の真ん中に子どもの手形を押してもらう。

所用時間：30分～1時間 費用：1人当たり2,000円(郵送費別途)

**(2) 作品とコラボした商品の開発・販売**

上記(1)のワークショップの開発・実施に当たって制作する見本(完成品)について、株式会社福音館書店と著者の監修を受け、そのまま販売していただくことを想定しております。制作物やバリエーション、販売価格等は参画者と別途協議させていただき、決定します。

**【想定例】**

京焼・清水焼の絵付け体験のために、絵本の世界観を表す登場人物や風景などをあらかじめ絵付けした豆皿を全4パターン制作し、コラボ商品として販売する。

なお、企画実施に係るスケジュールは、以下のとおり予定しております。

日程等		内容	備考
令和5年	8月下旬	参画事業者の決定 ワークショップ(商品)開発に係る調整	
	11月中旬頃	ワークショップ(商品)開発完了	あくまで目安であり、内容により調整できます。
	12月上旬～	ワークショップ開始	開発完了後に、随時、実施予定を調整します。
令和6年	1月～2月	本企画に関する大規模イベント実施	参画事業者には、イベント会場にてワークショップの実施やコラボ商品販売等をしていただきます。

**3 題材となる作品**

絵本作家の「林明子」氏が、2023年11月にデビュー50周年の節目を迎えられ、本企画の連携先である株式会社福音館書店も、これを大きくPRされることから、同社とともに、この節目を盛り上げながら本企画を実施するために、今年度は、以下の5作品を題材とします。

**【はじめてのおつかい】** 林明子 作



みいちゃんはママに頼まれて牛乳を買いに出かけます。自転車にベルを鳴らされてどきんとしたり、坂道で転んでしまったり、ひとりで歩く道は緊張の連続です。坂をあがると、お店につきました。お店にはだれもいません。みいちゃんは深呼吸をして、「ぎゅうにゅうください」と言いました。でも、小さな声しかでません。お店の人は、小さいみいちゃんには気がつかないみたい…。小さな女の子の心の動きを鮮やかに描いた絵本です。



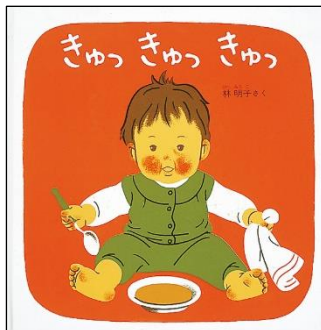
**【おつきさまこんばんは】** 林明子 作



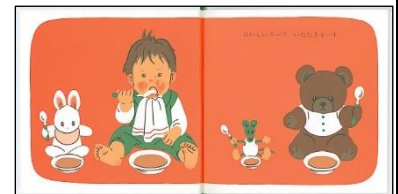
静かな夜の空。ネコが寝そべる屋根の上が明るくなって、しだいに金色に輝くまん丸いお月さまがでてきました。「お月さまこんばんは」。ところが、そこに黒い雲やってきて、お月さまを隠してしまいます。でも、だいじょうぶ。黒い雲は少しお月さまと話をし、また去って行きました。ふたたびあらわれたお月さま、にっこり笑顔で「こんばんは」。まるで話かけてくるようなお月さまのやさしい表情に子どもたちも思わずにっこり。



**【きゅっきゅっきゅっ】** 林明子 作



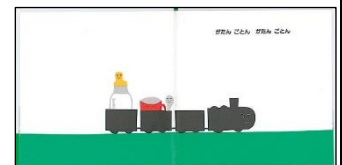
あかちゃんとぬいぐるみの動物たちが「おいしいスープ いただきまーす」。でも、ねずみもうさぎもくまも、うまく飲むことができません。おなか、手、足にスープをこぼしてしまいます。そんな時は、「ふいてあげるね きゅっ きゅっ きゅっ」。スープはからっぽになりました。あれ？ お口のまわりにスープをこぼしているのは？ ぬいぐるみにお世話を焼く様子や、動物たちの楽しい表情が、あかちゃんの心をとらえます。



**【がたん ごとん がたん ごとん】** 安西水丸 作

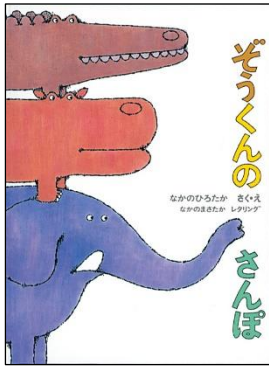


がたんごとんがたんごとんと、まっ黒な汽車がやってきます。駅で待っているのは哺乳瓶。「のせてくださーい」と言って汽車に乗り込みます。ふたたび出発し、がたんごとんと次の駅へ行くと、こんどはコップとスプーンが「のせてくださーい」。さらに次の駅では、リンゴとバナナが、ネコとネズミが「のせてくださーい」。みんなをのせて汽車は「がたんごとん」と終着駅へ。そこは…。くり返しのリズムが楽しい赤ちゃん絵本です。

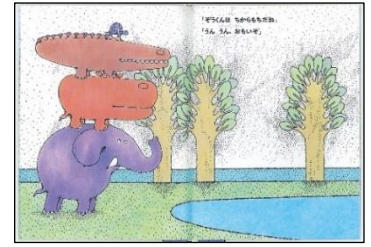




## 【ぞうくんのさんぽ】 なかのひろたか 作



ぞうくんはさんぽに出かけました。かばくんに会って、さんぽに誘うとかばくんはぞうくんの背中に乗りました。わにくんに会って、さんぽに誘うと、わにくんはかばくんの背中に乗りました。最後にかめくんに会って、かめくんがわにくんの背中に乗ると、ぞうくんが重さにたえられなくて、池にみんな落っこちてしまいました。単純にデザインされた動物たちのユーモラスなやりとりが、愉快的な散歩に子どもたちを連れていってくれます。



### 4 注意点等

- (1) 御応募いただいた方全員が参画できるわけではなく、エントリー内容を「伝統産業の日」実行委員会、京都市、株式会社福音館書店と著者で確認させていただき、最終的な参画事業者を決定いたします。現時点では、1作品につき1つの工芸体験を開発することを予定しております。
- (2) これまでに制作体験などを実施したことがない事業者でも参画いただけます。これを機に体験会を開発しようとされる方の、積極的なエントリーをお待ちしております。
- (3) メールでやり取りできることを必須とし、日中可能な限り電話等にて連絡が取れる連絡先を申込書に御記入ください。

### 5 応募方法・問合せ等

別紙の申込書に御記入いただき、メールにて御応募いただきますようお願いいたします。

**応募先** : [densan@city.kyoto.lg.jp](mailto:densan@city.kyoto.lg.jp)

なお、メールタイトルについては、以下のとおりとしてください。

「 **【絵本企画申込】〇〇〇〇（応募者名）** 」 (例：【絵本企画申込】伝産 日助)

**応募締切** : 令和5年8月15日（火）17：00まで

また、本件に関する質問等につきましても、担当者不在時にも対応できるよう、原則、メール等にてお送りいただきますよう御協力をお願いいたします。

(その際は、メールタイトルを「**【質問・絵本企画について】〇〇〇〇（事業者名）**」としていただければ幸いです。)

